

留学レポート

University of California, Irvine Materials Science and Engineering

大滝謙太

大学院に入ってから早くも二年が過ぎましたが、あっという間でまだ一年経っていないような気がします。今年から新しいプロジェクトを受け持ちさらに忙しくなりました。新しいプロジェクトは放射線下で使用するセラミックスのデザインと評価に関する研究です。このプロジェクトは現研究室のメインプロジェクトなので非常にやりがいを感じています。五月には ion beam を使用した実験をする為 Tennessee の Knoxville に三週間行ってきました。今回行った University of Tennessee はこのプロジェクトのコラボレーターの一人が所属する大学でしたが、施設や装置はプロポーザルをだして national laboratory を使用することもできます。user facility も多くあり、無料で装置を使うこともできます(得た結果で論文を書かなければいけないなどの制約あり)。装置はないけれども、この実験をしたいという時に各地の装置を借りれるのは非常に便利です。

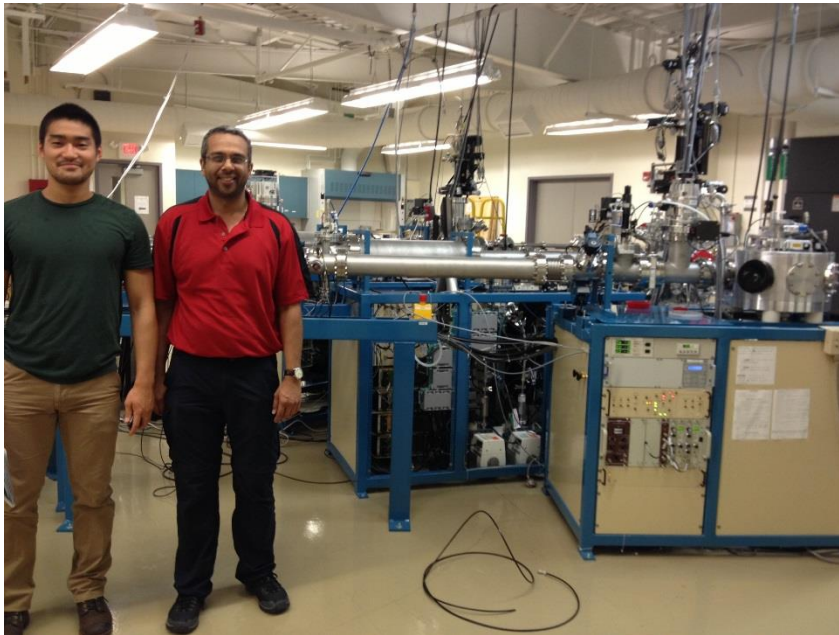
X線、電子ビーム施設でアシスタントとして働いていますが外部から電子顕微鏡等を使用しに来ている人も多くいます。そういったユーザー相手に電子顕微鏡を操作する機会も多々ありますが、自分の分野以外の材料や研究内容が聞けて非常に興味深いです。

10月にはまた学会があり、今回はオーラルプレゼンテーションをする予定です。そのためにもより多くのデータを得る必要があります。

現在の研究室では研究を支援してくれているファンドが一つしかない状況で、若干心細いことになっています。このファンド自体は非常に大きく多額ですが、PhDの人数と研究にかかる費用を考えると、時折心配になります。そのため、自分も含めた多くの生徒 TA として働いています。新しいファンドを得るために PI もプロポーザルを出していますが、ファンドを得るためにはサポートしたくなる裏付け結果が必要です。それを得るのは自分達生徒であるため日々精進しなければいけません。

また近頃は装置使用料の安い夜間に実験/電子顕微鏡の使用をしていて、朝になって帰ることが頻繁になってしまっています。それに伴いストレスも溜まりますが、ジムにいった体を動かし汗とともに流せば解消されます。

この夏の終わりには PhD への Qualifying exam を受けます。この試験では短い論文/プロポーザルをかいて5人の教授に今後 PhD でなにをどのように進めていくかを提案し議論します。それへの準備と夏の間の特設プログラムで来ている生徒へのデモンストレーションなどいろいろあり今年の夏も暑くなりそうです。



University of Tennessee にて